

授業概要

講義は、古代から近世までの中国の歴史を、王朝の正統性がいかに構築されてきたかに焦点をあてて進めていく。中国では、いつの時代においても為政者たちは自らの支配体制の正統性を証明する必要に迫られており、その「正統性の構築」という視角を軸に、中国の前近代史を政治史と物質文化史という二つの視点から時代背景とともに捉えていく。講義は「古代から中世へ」（第2回～第5回）、「多元と統一」（第6回～第8回）、「中国と東アジア」（第9回～第11回）、「中世から近世へ」（第12回～第14回）というように、大きく四つのテーマに分け、正統観念の変化とともに起きた社会動向と制度の変遷、さらに物質文化の変化を明らかにしつつ、正統観念および関連する制度の東アジア周辺諸国への拡散と受容についても触れる。

授業計画

第 1 回	中国の歴史：文献史料と考古資料
第 2 回	殷周革命と天命
第 3 回	春秋戦国と五行説
第 4 回	秦漢帝国の成立と展開
第 5 回	魏晉時代の貴族と豪族
第 6 回	南北朝の分裂と融合
第 7 回	北朝の漢化と仏教
第 8 回	隋唐帝国と中央集権体制の成立
第 9 回	東アジアにおける中央集権体制の拡散
第 10 回	東アジアにおける物質文化の拡散① 瓦と寺院
第 11 回	東アジアにおける物質文化の拡散② 都城の造営
第 12 回	宋代の社会と正統観念の変革
第 13 回	元明清の統治と正統性
第 14 回	宋代以降の物質文化
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

授業では、歴史に関する基礎的な知識と思考力を養うことを目標とする。特に、中国史に関する一般的な知識を身につけながら、文献史料と考古資料を用いて歴史を立体的に捉え、内在する課題とそれを解決する能力など、歴史事象に対する分析力の習得を目指す。そして、歴史を解釈するなかで、史料批判の意識と批判的思考の能力を養成する。

履修上の注意

「東洋史特論Ⅰ」を受講していなくても可。
中国史に限らず、中国考古学や東アジア物質文化交流史に関心のある受講者の積極的な参加を歓迎する。

予習・復習

各回の講義終了時に次回講義のレジュメと資料を配布するので、次回の講義開始までに目を通して基本的な知識を予習しておくこと。
講義終了後には、配布したレジュメや資料およびノートを読み返して復習すること。

評価方法

筆記試験（70%）、レポート（30%）で総合評価を行う予定である。
レポートは第1回の授業に課題を提示し、学期末までに提出すること。

テキスト

教科書は使用しない。毎回レジュメおよび資料を配布する。
参考文献については、必要に応じて授業内にて随時紹介する。